

# Fukushima NOW

Vo.2 (2016年11月発行)

当協会では、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の直後から今年3月までの5年間、広報紙「Gyro (ジャイロ)」の震災復興版として「がんばろう福島」を多言語で発行し、震災復興・復旧に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動等を国内外の皆様にご伝えてきました。

今年度からは、「Fukushima NOW」で、福島の現在の様子や県内で暮らす外国出身者の声を中心にお伝えしています。

## Voices from Fukushima

### ゾーイ・ヴィンセントさん

(イギリス出身・福島市在住)



今年8月から(公財)福島県観光物産交流協会に勤務しています。7月まで長崎県雲仙市でALT(外国語指導助手)として1年間勤めていたので、4月に熊本地震を経験しました。私が住んでいた地域でも大きく揺れ、とても動揺しました。この経験から、日本のどこ

で暮らすにしても自然災害があるのだという意識が強くなり、福島市へ引っ越してきた時、まず非常時の避難先を確認し、自宅に持ち出し袋を用意しました。

現在、外国出身者としての視点で、県内各地の観光の紹介などを行う業務や、海外での県の営業活動支援などに携わっています。福島県は、豊かな自然が身近にあり、またほんの少し都会的ですが、地域毎に特色があり、昔からの歴史的なものとも共存している興味深いところだと思います。仕事を通じてたくさんの人と関わりを持つことができるので、それを活かして、福島県のまだ知られていない魅力や、東日本大震災から5年経過し更なる復興に向けてどのように進んでいるのか、ここで暮らしている私だからこそできる発信をしていきたいと思っています。

#### ●Rediscover Fukushima

URL : <https://rediscoverfukushima.com/>



▲9月、猪苗代町の天鏡閣で会津木綿のドレスを試着体験

### ベン・スレイニッチさん

(カンボジア出身・福島市在住)



2004年に来日してからずっと福島市で暮らしています。新婚旅行で訪れたタイで、現地の伝統マッサージに魅了されたことがきっかけとなり、もう一度タイへ行って学び、専門資格を取得しました。約3年間、福島市内のマッサージ店で働き、東日本大震災後自分の店を出しました。それまでの経験や自分の能力を活かしたかったことと、たくさんの方の震災による不安やストレスを緩和できないかと思ったからです。1対1での接客なので、何よりお客様とのコミュニケーションが大切です。それがうまくいってニーズに応えることができると、やりがいを感じます。

▶ひとりひとりの時間を大切に  
丁寧な施術をしている



日常生活で使う日本語は年々苦にならなくなってきましたが、子どもたちが学校に通うようになったので、学校で使う日本語や、仕事をしていてわからなかった表現などをもっと知りたいと思い、昨年からは日本語教室での学習を再開しました。様々な場面できちんと対応できる日本語を身につけたいと思っています。

最近、日本で自然災害が多く発生しているので、ニュースを見ると心配になります。しかし、自分が生まれ育った頃の母国の悲惨な出来事を振り返ると、日本は法律がきちんとあって守られていますし、何より暮らす上での安全性が重視されているので、落ち着いた生活ができています。「今を生きている」ということを幸せに思っています。

## Scenes of Fukushima

### JICA 研修員受入研修「スポーツを通じた障がい者の社会参加の促進」

JICA 東北では人材育成支援や課題解決支援を目的とした途上国の研修員受入事業を実施しています。10月13日（木）から10月28日（金）までの期間、「スポーツを通じた障がい者の社会参加の促進」をテーマに、アンゴラ、バングラデシュ、フィジー、ジャマイカなど11カ国13名の研修員が福島県を訪れました。この研修では、福島市で障がい者に関する施策や福島県内のスポーツの現状を学んだあと、二本松市のJICA二本松で車いすを用いたポッチャ競技やフライングディスクを体験しました。また、いわき市岩間地区や相馬市の光陽サッカー場など東日本大震災の復興状況視察も行われ、研修員は理解を深めました。



▲車いすを用いたポッチャ競技について学ぶ研修者

### 中国洛陽市群星芸術団 「ふくしま市民交流コンサート」

9月25日（日）、福島中国伝統文化愛好会主催によるコンサートが福島市の桜の聖母短期大学で行われました。二胡や板胡などの中国伝統楽器の演奏が披露されましたが、終盤では「花は咲く」も演奏され、会場は大いに盛り上がりました。芸術団一行は、福島市に滞在中市内の小中学校の訪問交流や日本人宅へのホームステイなども行いました。



▲演奏する芸術団のメンバー

### 外国出身者のための実用的な日本語講座

当協会では、今年度、外国出身者を対象に、生活に役立つ日本語を学習する講座を実施しています。10月16日（日）には、福島市のA・O・Z（アオウゼ）で、インドネシア出身者を中心に、緊急時に使う日本語講座を開催し、通行人に助けを求める日本語や、119番に通報するときに必要な日本語、そして救命処置の仕方について学びました。



▲心肺蘇生法やAEDの使用法について説明を受ける参加者

### 多言語による復興情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」

福島県が運営するウェブサイト「ふくしま復興ステーション」では、福島県の復興状況や震災・原子力災害に関連する情報などを9言語（日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語）でお知らせしています。また、「福島県放射能測定マップ」により、県内の環境放射線の各種測定の結果をお知らせしています。

ふくしま復興ステーション URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>



## FIA Information

### ○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日 10:00～14:00  
※第4・5木曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316(相談専用)

E-mail：ask@worldvillage.org (相談専用)

### 発行者

(公財) 福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1

福島県庁舟場町分館2階

TEL 024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>

